



2006年度 海辺の漂着物調査結果



【写真提供：海上保安庁】

(財)環日本海環境協力センター

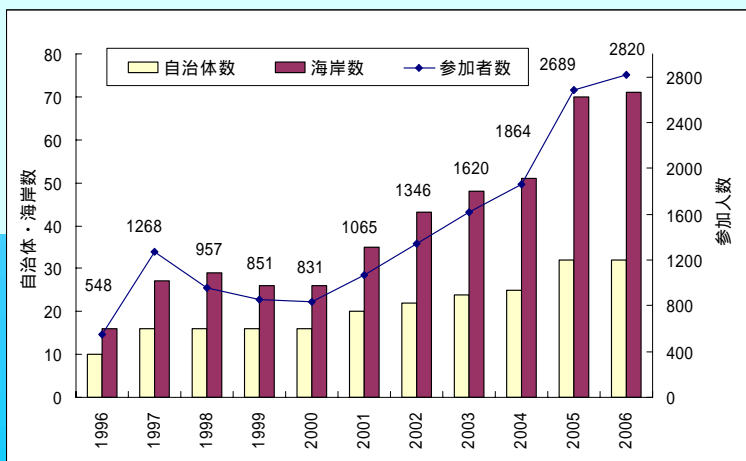
2006年度調査地点図

【2006年度調査規模】

調査期間: 2006年4月18日
 ~ 2007年3月25日
 参加人数: 延べ 2,820人
 調査自治体数: 32自治体
 調査海岸数: 71地点



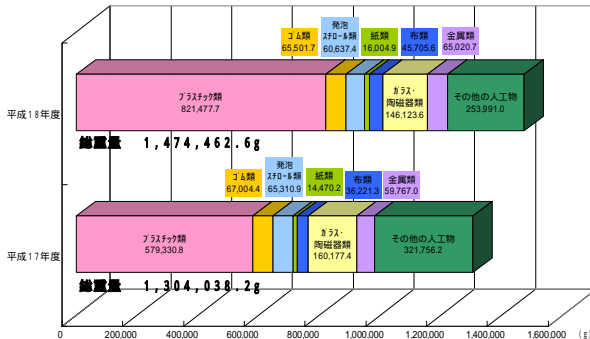
これまでの累積
 15,859名が参加!



2006年度調査結果

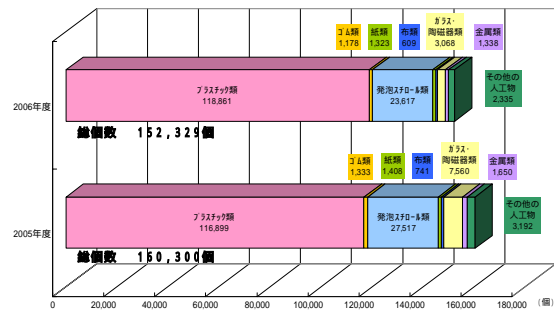
平成18年度 海辺の漂着物総重量

1,474,463g



平成18年度 海辺の漂着物総個数

152,329個

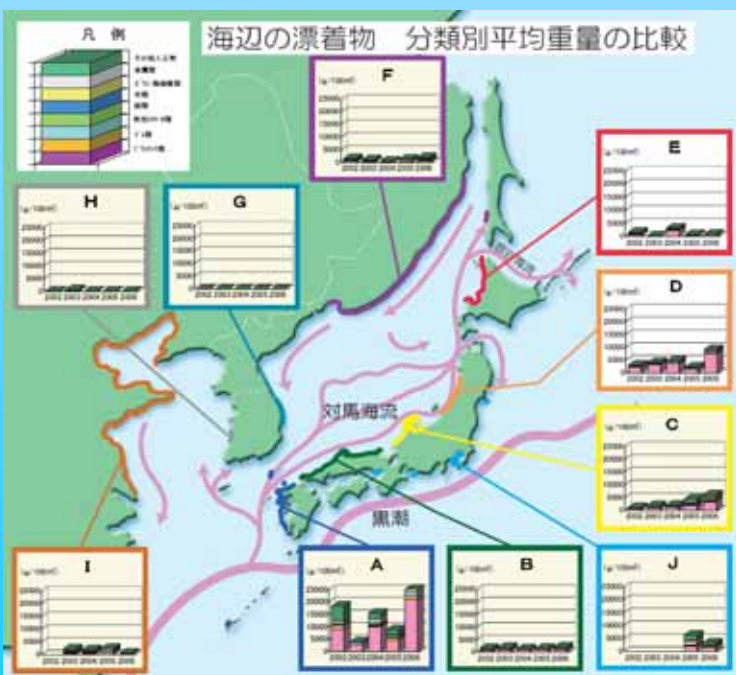
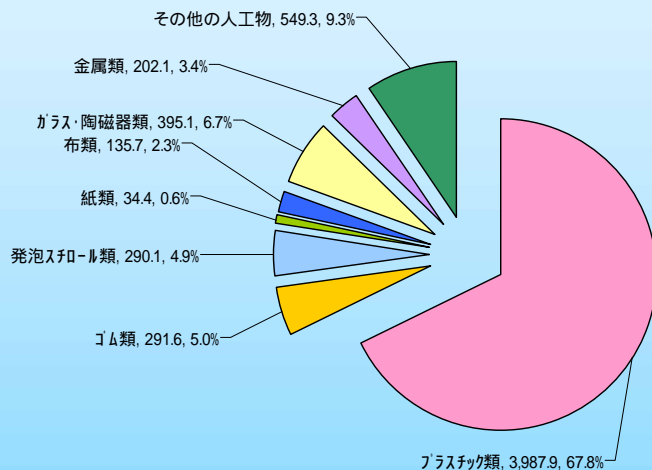
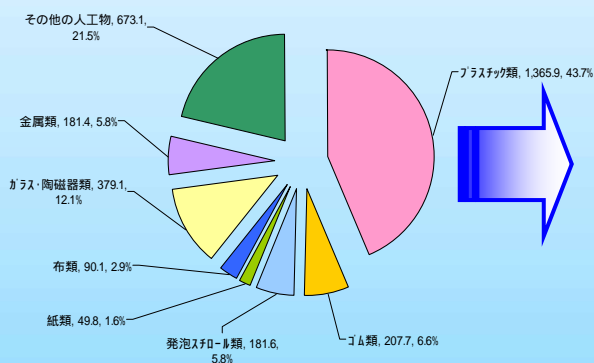


平成17年度 100㎡当たりの平均重量

3,129g/100m²

平成18年度 100㎡当たりの平均重量

5,886g/100m²



100㎡当たりの漂着物平均重量は、5,886gであり、「エリアA」が27,381g(長崎県対馬市越高海岸:170,193g)と最も多く、次いで「エリアD」9,068g、「エリアC」6,057gの順であり、「エリアE~J」は少なかったです。

一方100㎡当たりの漂着物平均個数は、428個であり、「エリアA」が1,798個と最も多く、次いで「エリアJ」569個、「エリアB」388個、「エリアC」384個の順であり、「エリアE~J」は、少なかったです。

このように、日本国内のエリア別の全般的な特徴としては、日本海への対馬海流の入口でもある九州エリアが重量、個数とも多く、その他エリアは、少ない傾向がみられました。



海洋ごみ問題の解決に向けて大事なこと！

正しく理解すること

海洋ごみ問題とは、人間が作り出した“もの”が沿岸・海洋環境中に蓄積されることにより生じる海洋汚染問題です。

海洋ごみの発生原因は、人間の“もの(廃棄物を含む)”の不適切な取り扱いによるものがほとんどです。

海洋ごみのほとんどは、人間による陸上起因活動から発生される。

海洋ごみは、世界中のあらゆる海岸や海上等で確認できます。

海洋ごみのほとんどは、プラスチック類です。

一人ひとりが実践すること

海岸にある漂着物(ごみ)を取り除くこと 海岸清掃

ごみを出さないこと 地球環境にやさしい
ライフスタイルへの改善

いらなくなったらものは適正に処理すること
再使用、リサイクル

